

2021年度 事業所における自己評価結果（公表）
 そらのと

討議年月日: 2021年12月8日

公表: 2022年1月17日

事業所名 そらのと

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			
	2 職員の配置数は適切である	○			
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		スケジュールボードやマークなどで子どもにも日々のスケジュールや荷物の置き場所がわかるように工夫しています。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		トイレは自慢できる清潔さです。感染対策と合わせて支援後の清掃を徹底しています。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している		○		開所1年目ということで、さまざまな方法を試用し、模索しています。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			今年度の保護者アンケートを参考に、業務改善内容を検討します。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		2021年1月より公開しています。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている				
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		臨床心理士による研修会など、今年度は12月までに5回の研修を実施しました。	来年度も計画的に研修を実施していきます。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		KIDS乳幼児発達スケールを基本として、m-chatなども使用しています。	適切なアセスメントツールを選択できるよう、職員の学びを深めていきます。
	12 児童発達支援計画には、「児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている		○	現在はチームリーダーを中心に立案しています。	チーム全体で立案できるよう個々のスキルアップに努めます。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○			
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		プログラム前に打ち合わせを行なっています。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		プログラム後に振り返りを行なっています。	短時間で効率よく振り返りができるよう、記録用紙の内容などを工夫していきます。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		個人の支援記録、振り返り記録を各職員に共有しています。	
20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○				
その他	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		現在は児発菅が出席しています。	今後必要に応じて担当指導員の参加なども検討していきたいと思っています。
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○		十分ではないが、必要時は情報交換などを行なっています。	今後は積極的に市の担当者とも連携を取りたいと思っています。
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている			該当なし	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている			該当なし	
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○		就園先へ訪問したり、担当者会議などでお子様の様子や支援内容について情報交換に努めています。	今後も保護者様のご意向をお聞きしながら積極的に交流をしていきたいと思います。
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○		現在該当者がおりませんが、次年度は保護者様のご意向をお聞きしながら、情報共有、相互理解に努めたいと思います。
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		法人で運営する親子ひろばからふるは地域の親子の居場所支援事業として、事業所利用者も参加し、交流の機会を設けています。	
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加している	○			
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		お迎えの時間をずらして一人一人の保護者様とコミュニケーションを深める時間を設けています。	
	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○		臨床心理士によるペアレントトレーニング講座や児童精神科医師の講演会を行いました。	
保護者への説明責任等	32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時にご説明しています。	
	33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			
	34 定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		月に1回保護者相談を実施し、お子様への関わり方や支援の内容についてのご相談を受けています。	
	35 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		未就園児は月1回保育参観を実施し、保護者の交流の機会を設けています。	就園児に関しても今後定期的に保護者同士が会える機会を設けていきたいと思います。
	36 子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			
	37 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		月に1回「そらのとりつうしん」を発行しています。	
	38 個人情報の取扱いに十分注意している	○			
	39 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	40 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		8月に「からふるフェスタ」という夏祭りを実施しました。	
	非常時等の対応	41 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○		今年度はマニュアルを作成し、職員に周知しました。
42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている		○		職員による避難訓練を年2回実施しました。	次年度はお子様も一緒に行う避難訓練についても計画していきます。
43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している		○			
44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている				該当なし	現在該当者はおりませんが、初回アセスメント時に必ずアレルギーの有無を確認しています。
45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している			○		
46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている		○		職員リーダーが愛知県の虐待防止研修を受講予定です。	年度内(2022年2月)に虐待、身体拘束に関する職員研修を実施予定です。
47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		○		今年度は、法人で身体拘束適正化に関する指針を策定しました。	

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。